



る う て る

2010年
11月
No.755

■発行所■
日本福音ルーテル教会事務局広報室
〒162-0842 東京都新宿区市谷砂土原町 1-1
電話 03-3260-8631

■振替口座 ■00190-7-1734
■ウェブサイト ■http://www.jelc.or.jp
■Eメール ■jelc@jelc.or.jp
■発行人 ■徳野白博 m-tokuno@jelc.or.jp
■印刷人 ■晴文堂印刷株式会社
■定価 ■1部 40円 (郵便料金を含む)

説教

「終わりは始まりである」

「見ると、二人の人がイエスを語り合っていた。モーセとエリヤである。二人は榮光に包まれて現れ、イエスがエルサレムで遂げようとしておられる最期について話していた。」

(ルカによる福音書 九章三十一、三十二節)

教会の暦は、「待降節」から始まります。その「第一主日」は、十一月三十日の「聖アンデレの記念日」に最も近い日曜日と決められています。ですから必ず十一月二十七日から十二月三日の間に来ます。その一週間前が「聖霊降臨後最終主日」で、一年の教会暦の最後の日曜日です。また十一月一日は「全聖徒の日」で、この月の最初の日曜日を「全聖徒主日」として、召天者を記念する礼拝などを行っている教会も多いでしょう。つまり教会暦上で

は、十一月は、「終わり」を考える時期なのです。聖句はイエスが山上で変容された時の記事ですが、イエスの人生は「エルサレムで遂げようとしておられる最期」(即ち十字架上の死)を目指しての生涯でした。この地上にあって、イエスは御自分の死を見据えて、その生涯を歩まれました。私たちもこの地上での「終わり」があります。生まれたその瞬間から、私たちは自分の終わりである死に向かって生きています。

個人的な証をさせていただきます。私は今から七年前に妻を亡くしました。その十年前に乳がんが発見され、その時点ですでに腰椎二ヶ所に転移しており、主治医から「ステージ」で、その頃の五年生存率は二十五%と言われていました。

ある年のイースター礼拝で念願の演奏をすることができたのでした。

また、宣告を受けた時、一番下の長女は小学校六年生でしたが、その長女が成人になる数年前、「娘の成人式には自分で着物を着せたい」と考え、着物の「着付け教室」に通い出しました。時々体調を崩し入院を繰り返しながらも続けて、着付けの資格を取りました。そして念願通り成人式の日、自分の手で娘に着物を着付けることができました。

これらのことは、自分の終わりを意識し、与えられた恵みの日々を精一杯生きようとした妻の証しであると思います。

結局妻は、がんの発見から十年間生きることができました。その十年目、いよいよ最期の時が近づいていることを告知されたとき、このようなことを私に話してくれました。



「十年前がんになった時、神様に『三人の子供たちにはまだ手がかります。せめてあと十年生かしてください』と祈ったら、本当に神様は願い通りに十年生かしてくださいました。神様って本当に素晴らしい。」と。そして「だからもう何も思い残すことはない」と言って召されました。

またかつてこのようにも話していました。「がんと言われた時に思ったのは、あなたや子供ではなくわたしでよかった」と。妻が「わたしでよかった」と言ったのは、それを自分の十字架として背負う信仰があったからでしょう。幸いもあれば災いもありました。それが人生です。「神から幸いを受けたのだから災いをも受けるべきである」というヨブの信仰を思いました。

私たちが例外なく誰でもこの地上で死を迎えます。しかし、それで私が終わるわけはありません。この地上の死の後に、新しい生が始まります。私たちの終わりであるこの地上の死は、神の国での新しい命の始まりです。自分の死を見据えて生きることが出来る人は幸いです。



この時から、妻はいつ終わるかもしれない自分の死を見つめて生き始め、いろいろなことに挑戦しました。まず一つは、その当時在籍していた教会でハーブの演奏会があり、その音色に魅せられて、何人かの女性たちと一緒にハーブを習い始めました。そして何年かの練習の後、

またかつてこのようにも話していました。「がんと言われた時に思ったのは、あなたや子供ではなくわたしでよかった」と。妻が「わたしでよかった」と言ったのは、それを自分の十字架として背負う信仰があったからでしょう。幸いもあれば災いもありました。それが人生です。「神から幸いを受けたのだから災いをも受けるべきである」というヨブの信仰を思いました。

私たちが例外なく誰でもこの地上で死を迎えます。しかし、それで私が終わるわけはありません。この地上の死の後に、新しい生が始まります。私たちの終わりであるこの地上の死は、神の国での新しい命の始まりです。自分の死を見据えて生きることが出来る人は幸いです。

またかつてこのようにも話していました。「がんと言われた時に思ったのは、あなたや子供ではなくわたしでよかった」と。妻が「わたしでよかった」と言ったのは、それを自分の十字架として背負う信仰があったからでしょう。幸いもあれば災いもありました。それが人生です。「神から幸いを受けたのだから災いをも受けるべきである」というヨブの信仰を思いました。

私たちが例外なく誰でもこの地上で死を迎えます。しかし、それで私が終わるわけはありません。この地上の死の後に、新しい生が始まります。私たちの終わりであるこの地上の死は、神の国での新しい命の始まりです。自分の死を見据えて生きることが出来る人は幸いです。

「教会手帳2011」

お申し込み先
北海道リスス教会館 TEL:011-731-7217/FAX:011-747-5979
キリスト教出版センター TEL:03-5269-4900/FAX:03-5269-4911
静岡福音堂 TEL:052-264-0264/FAX:052-264-4161
名古屋福音堂 TEL:052-741-2416/FAX:052-733-2648
広島福音堂 TEL:098-67-0291/FAX:098-67-3309
広島福音堂 TEL:082-228-4914/FAX:082-223-0951
キリスト教出版センター TEL:096-372-3503(FAX 共用)
*上記以外各教会へ

定価 1,100円

もうひとつの十字架の神学

二世紀の宣教論

マーク・トムセン 著
宮本 新訳
リトン出版

定価 2,000円

日本福音ルーテル教会の社会福祉施設の紹介 その8

社会福祉法人キリスト教児童福祉会
児童養護施設

聖母愛児園

施設長 石嶺 昇

聖母愛児園（カトリック）の始まりは、一般病院（中区山手町82）の玄関先に子どもが放置されていた昭和21年4月です。その後、駅や道路に置き去りにされている乳児を警察がシスター達のところへ連れてくるようになり、聖母病院からも同じような乳児が届けられました。

シスター達は、一般病院（中区山手町82）内で子どもたちの養育を始めました。昭和20年代30年代は、ドイツ・カナダ・ハンガリー・ポーランド・イングランド等のシスター達が活躍していました。



昭和21年8月までに、子どもたちを22名預かり、翌年8月までには136名受け入れるなど、

献身的に働きました。昭和20年代は戦後の混乱期であり、生後間もない子どもたちが放置されており、預かってでも疾病や栄養失調等で死亡に至るケースが多く、献身的に働く職員たちの心中は、穏やかではなかったことでしょう。

また、昭和25年から昭和35年までは、アメリカのご家庭との養子縁組があり250組程の縁組みが成立していました。社会福祉法人キリスト教児童福祉会では平成18年10月に社会福祉法人聖母愛児園から法人移管を受け、この施設の経営に当たることになりました。



聖母愛児園65年（平成22年現在）の歴史は、聖母会として59年、キリスト教児童福祉会として6年と二つの法人によって成り立っています。圧倒的に聖母会としての歴史が長く、その功績は、賞賛に値します。

平成22年8月には新築物が竣工しました。これまでの中舎制システムから、マンション型の小舎制へと、支援システムを移行しています。5LDKの間取りに子どもたち6名と職員が生活を営んでいきます。炊事、洗濯、清掃、子育てなど、全てがこの中で行われ、子どもたちは男女混合縦割りで構成されています。

●ホームページ
社会福祉法人キリスト教児童福祉会
http://kjpfn.org/
http://seibojifen.com/

高齡者伝道シリーズ
「遠慮しないで、訪問を願う」
下関・宇部・厚狭教会牧師 小勝泰保子

訪問へ向かう私の原動力、それはスリランカでの体験が源となっています。ワークキャンプで子どもたちの施設に滞在しました。その時、敷地内にある教会のメンバーのおじさんが入院したというので、シスターは施設の子どもたちと日本人を連れて、おじさんを見舞いました。そこには娘さんとお孫さんがいて、シスターは娘さんと話した

後、折り、みんなで讃美歌を歌いました。高齡者の在宅介護の仕事を9年間しましたが、そのような場面に遭遇したことがありません。牧師が来訪し、祈り、讃美歌を歌う、子どもたちの姿を見かける機会も少ないように思います。

訪問について、これぐらいで牧師を呼んでと遠慮されたり、いつ牧師を呼んだらよいか分らない、という声も聞かれます。牧師と妻が祈っている間、息子が家族は遠慮して席をはずしてしまおうとも。しかし、頼るべき方を示す祈りの場面に立ち会ったことは、子や孫たちにとっても大切な出来事です。教会の中でこのような時、訪問をしてもらえるのか話し合っておくといでしょう。牧師の訪問を支えるサポート体制も課題です。

私の本棚から
杉本健郎著
「子どもの脳死・移植」
(タリエイツかもがわ2003)



ルーテル・医療と宗教の会という、医療従事者、教職者、そして一般信徒からなる会をご存じでしょうか？ 宣教100年記念の年（1983）から東教区を中心に活動を続けています。今年の公開講演会が7月11日・雪ヶ谷教会のテーマが「脳死と臓器移植」ともに命を考える。講師・聖公会引退司祭関正勝先生でした。現在、世話人代表の筆者は、その準備のため、脳死臓器移植関連の資料を見直していました。

この問題への杉本先生の熱い思いの背景に、ご子息が脳死状態となり、腎臓移植の提供者となったという事実があります。本書でも触れられています。杉本先生は、子どもの脳の専門家であり、その意味では、今後脳死判定に関与するかもしれない専門医です。そして同時に、臓器提供者の父親でもあるのです。

ELCAの動向
昨年10月号の「うらな」で報じたように、2009年8月、アメリカ福音ルーテル教会（ELCA）は賛成で特別声明（Official Trust）を採択し、それに基づき逐条審議で同性愛教職者の承認を可決した。この教会の決議は同性愛に対する偏見や差別をなくし、生活上のさまざまな権利が認められていく運動が20世紀初頭から始まった。欧米の長い歴史と無関係ではない。

アメリカ福音ルーテル教会（ELCA）は賛成で特別声明（Official Trust）を採択し、それに基づき逐条審議で同性愛教職者の承認を可決した。この教会の決議は同性愛に対する偏見や差別をなくし、生活上のさまざまな権利が認められていく運動が20世紀初頭から始まった。欧米の長い歴史と無関係ではない。

アメリカ福音ルーテル教会（ELCA）の現在の総会委員は450万であり、教会数は1万2,000である。その内、ELCAから脱退し、新組織「采国ルーテル教会（NALC）」を結成したのは現在のところ18教会であるといわれている。

ELCA総裁監督マーク・ハンセンは、8月24日、自らの書簡において、意見を異にする人との対話の難しさに悩まされる今日の世界の中にあっても、積極的な対話と議論の可能性がルーテル派教会の中に残されていると説いている。（宣教）

神様から与えられたいのちと向き合う、いつ現実となるかもしれない、その決断の時に備えるために、私の本棚にある、手に取る、と重い一冊をご紹介します。

今年に入り、9月11日付の『キリスト新聞』の紙面でアメリカ福音ルーテル教会（ELCA）は賛成で特別声明（Official Trust）を採択し、それに基づき逐条審議で同性愛教職者の承認を可決した。この教会の決議は同性愛に対する偏見や差別をなくし、生活上のさまざまな権利が認められていく運動が20世紀初頭から始まった。欧米の長い歴史と無関係ではない。

アメリカ福音ルーテル教会（ELCA）の現在の総会委員は450万であり、教会数は1万2,000である。その内、ELCAから脱退し、新組織「采国ルーテル教会（NALC）」を結成したのは現在のところ18教会であるといわれている。

ELCA総裁監督マーク・ハンセンは、8月24日、自らの書簡において、意見を異にする人との対話の難しさに悩まされる今日の世界の中にあっても、積極的な対話と議論の可能性がルーテル派教会の中に残されていると説いている。（宣教）

神様から与えられたいのちと向き合う、いつ現実となるかもしれない、その決断の時に備えるために、私の本棚にある、手に取る、と重い一冊をご紹介します。

横濱市中野地域療育センター所長
日本発達障害児支援会会長
原 仁

河田稔牧師を偲んで 引退教師 石橋幸男



1958年、私が伝道師として益田に着任したとき、宇部のテール宣教師が関係教師だったので、毎月宇部教会に泊りがけ行つて、河田先生の開拓伝道振りを拝見した。先生は多才

で、「スポーツ万能牧師」と言われ、テニス、卓球、ボーリング、将棋、囲碁にすぐれ、これによって教会へ学生や青年を引き付け、体当たりの伝道を成功させておられた。

わたしは1962年に米国留学し、その後1964年、市ヶ谷の学生センター、市ヶ谷教会に着任。伝道方策推進委員として、当時松山教会で活躍中の先生など全国の諸教会を巡回した。

1970年に岡山に転任。同じ西教区の常議員として働くようになった。先生は教区長として、よく私

宅に泊まれた。6年後大阪教会へ招聘されてくる前、私は教区長として、先生を松山から天王寺に移っていた。先生と励まして、天王寺教会と幼稚園を盛んにした。

先生には妙な欠点があった。高所恐怖症である。航空機が苦手であるのみならず、高層マンションの訪問もお出来にならなかった。

しかし、勉強しておられるのを見たことはないが、日々の活動の中に説教の狙いをつけて学んでおられたのでしよう。従って、説教はボーリングでのストライク、球技では相手の弱点に

スマッシュを打ち込むような痛さがあった。先生は体質的に入れ歯がびったり歯ぐきにつかないと嘆いておられるが、ある日、朝まで待つてから、裏入れ歯が口から飛び出し、入った。気づいた人はハッと

思ったら、先生ははつと右手で受け止め、すかさず口に納めて説教を続けられたという。

最後に、病気に對する警戒心が足りなかった。「教会所へ行って打ち合っていたら、途中でふらつとしてやめて帰った」「聖書研究をみなさんの前でしていたら、口が廻らなくなつて、

途中でやめた」と言っておられた。引退後、松江教会へ牧会委嘱で行っておられて、ある晩、脳梗塞が起つたのに、朝まで待つてから、裏入れ歯が口から飛び出ていた。気づいた人はハッと

思ったら、先生ははつと右手で受け止め、すかさず口に納めて説教を続けられたという。

最後に、病気に對する警戒心が足りなかった。「教会所へ行って打ち合っていたら、途中でふらつとしてやめて帰った」「聖書研究をみなさんの前でしていたら、口が廻らなくなつて、

谷口博章牧師を想う 引退教師 前田貞一



て、上諏訪(兼・岡谷)、熊本釧路の各教会を歴任し、さらにドイツで交換教師として十年間の奉仕をし、帰国後は現在の九州ルーテル学院チャプレン、その後、市川教会に赴任、二〇〇〇年に引退された。

日本福音ルーテル教会が戦後、日本基督教団から離脱をして、再建日本福音ルーテル教会を組織し、同時に日本ルーテル神学校が再開されたその第一期生、六名中の一人(他の同期生には南里・林の諸氏)であった。このほか、個人的集団であった印象を残している。戦後の未だ揺籃期の神学校の中で、教科範囲・教科レベルを超えて真剣に格

谷口博章牧師が神様の召しを受け、故人の籍に移られたのはこの二〇一〇年九月二十五日のこと、心に残る先輩である。神学校卒業直後一九五三年に名古屋復活教会に赴任、その後米国留学を経

て、隣室である私が呼びに行つた。ノックをしても応

答がなく、教授にその旨を伝えた。教授は私を同道して再度部屋に向かい、私の部屋の椅子を出させ、それに乗って欄間窓から部屋を覗き「居るのは分かってる。出て来なさい」と声高に言った。中から「本人が居ない」と言っているのだから、留守に間違いないと彼は欠席した。補助金で楽しんでいると精神が腐ると云う持論からの拒否であった。

聖物一辺倒ではなく、ユーモアもあり、真剣であり、一徹であり印象深い先輩であった。「福音と律法を問い続ける」という安直な福音主

義(…イズム)について、「…イズム」は依存症・中毒に他ならない。「福音主義」は福音を堕落させる」と言っていた。神学校卒業後話合う機会は無くなったが、氏が到達している境地を伺いたいと何度も思った。余韻は今も残っている。そう云う意味において彼は甦っている。

江口氏は今年7月に「神の仮面」を著し出版されたので、これをテキストとして事前に各自学習し、講演と議論に臨んだ。ルターにまつわる神学論議などなく、現代社会の諸問題ことに新聞紙上でも取り上げられた身近な事件や話題を、ルター神学から解釈する、何か見えるか。それが著書「神の仮面」の主題であり、今回の退修会でもそれを取り上げることとした。江口氏自身ルーテル教会の教

職者、今は東京女子大学教授という職にあるため、外から自分の教会を眺めることができるというユニークな立場にいたことが、今回の主題をより興味深くしてくれたように思う。社会問題をルーテル神学で斬る手法もさることながら、同時に、ルーテル教会の特徴、ルーテル教会の牧師像などを、氏自身が仕事上出会う他教派の牧師たちとの会話や

大学でのやりとりと比較しながら語る独自の見解は、とても鋭くかつ心強かった。喉をからしめての熱弁に役員もよっやく気づき、そつとペットボトルの水を差し出すも手を着ける氣配もつたくなし。「今度こそは...」と水をコップに注いで飲むが、ひょっとお水をい

る。教区自立が困難な財政状況の中で特別基金である「北海道自立基金」からの600万円を人件費補助として財源投入が図られている。基金の活用限度と地域自給の在り方、東教区と一層の連携と共同の可能性、さらに教区性の妥当性等も含めた新たな北海道伝道の中・長期的計画案の作成が次期総会までに教区及び本教会に求められている。



宣教会報告

6月常議員会の議決に従い、2009年10月6日(水)と7日(木)の両日、ルーテル市ヶ谷センターを会場に2010年度の「宣教会」が開催された。出席者は、議長をはじめ本教会の役員、事務局スタッフ、信託委員、そして各教区から各々3名、合計25名程度である。今回の宣教会は、各教区からの宣教会のあり方、北海道特別教区の今後の方向性、#4期総会の方策の向けての準備協議、それと先の総会から付託され、財務委員会が作成した「教会年金負担計算式案」の説明が行われ、そこにて適切な意見と提案が出されたので、これらを踏まえて、来年度施行を図るためにも、常議員会に最終案を提議する予定である。各教区の宣教会態勢に関しては、各教区長による各々宣教会方針及

東地域教師会退修会報告

毎年秋恒例の教師会退修会は9月14日と15日、御殿場にて開催。講師に江口再起氏を迎え、「ルター神学と教会の『今』」をテーマに行われた。参加者は講師を含めて30名。

江口氏は今年7月に「神の仮面」を著し出版されたので、これをテキストとして事前に各自学習し、講演と議論に臨んだ。ルターにまつわる神学論議などなく、現代社会の諸問題ことに新聞紙上でも取り上げられた身近な事件や話題を、ルター神学から解釈する、何か見えるか。それが著書「神の仮面」の主題であり、今回の退修会でもそれを取り上げることとした。江口氏自身ルーテル教会の教

職者、今は東京女子大学教授という職にあるため、外から自分の教会を眺めることができるというユニークな立場にいたことが、今回の主題をより興味深くしてくれたように思う。社会問題をルーテル神学で斬る手法もさることながら、同時に、ルーテル教会の特徴、ルーテル教会の牧師像などを、氏自身が仕事上出会う他教派の牧師たちとの会話や

大学でのやりとりと比較しながら語る独自の見解は、とても鋭くかつ心強かった。喉をからしめての熱弁に役員もよっやく気づき、そつとペットボトルの水を差し出すも手を着ける氣配もつたくなし。「今度こそは...」と水をコップに注いで飲むが、ひょっとお水をい

着任者、退任者紹介 (着任) 2010年9月1日付主任牧師 ボウツカ・マルツェイ 東教区・スコミ教会 信託宣教師 ジョムラ・ヒロアキ&バイビ (退任) 2010年8月31日付教会委員終了 松隈貞雄(引退教師) 西教区・宇部教会 連絡先: 国立病院機構 山口宇部医療センター 〒755-0241 山口県宇部市東波岐85番地 7病棟